



インターネットでオールカラーの記事が読めます！

いわてアグリバンチャーネット 普及センターもりおか

検索

第195号 令和元年10月24日発行
 盛岡農業改良普及センター
 盛岡市内丸11-1 盛岡地区合同庁舎
 TEL019-629-6730 FAX 019-629-6739


冬の施設栽培野菜に対する農薬散布には特に注意を！

- 県内農産物における農薬残留基準値超過事案の多くは、冬の施設栽培の葉菜類で発生しています。
 - 農薬散布に際しては、散布前に農薬のラベル等に記載されている農薬使用基準を必ず確認し、安全使用を心がけましょう。
- ※「農薬使用基準」
- ・ 適用作物
 - ・ 単位面積当たりの使用量
 - ・ 希釈倍数（使用倍率）
 - ・ 使用時期（収穫前日数）
 - ・ 使用回数（有効成分の種類ごとに定められた総使用回数にも注意が必要）


【県内農産物の農薬残留基準値超過事案（H26～R1）】

（虫）：殺虫剤、（菌）：殺菌剤、農薬商品名の例を記載

しゅんぎく
 ①H28年12月
 （虫）ダイアジノン
 ②H28年12月
 （虫）トレボン



③ほうれんそう
 H29年6月
 （虫）スミチオン



④ニラ
 H28年12月
 （虫）ダイアジノン



⑤チンゲンサイ
 H26年11月
 （菌）ダコニール



○ 基準値超過事案は、いずれも施設野菜で発生しています。
 ○ 原因は、作物に適用がない農薬の使用〔①〕、使用基準（収穫前日数、使用量）の誤り〔③、④〕、防除機具の洗浄不足〔②、⑤〕と見られています。

【対策のポイント】

- ☑ しゅんぎく、ニラなどの軟弱野菜は特に要注意！
 一般に可食部重量の軽い野菜ほど農薬の残留濃度が高くなる傾向があります。散布前に使用基準を必ず確認しましょう。
- ☑ 散布後は直ぐに機具の洗浄を！
 残留基準値超過の原因として散布機具の洗浄不足が多くあげられています。機具は散布後、丁寧に洗いましょう。
- ☑ ハウス内に複数の作物がある場合、飛散に注意！
 散布農薬に適用のない作物が隣にある場合、基準値超過のリスクが一層高まります。飛散しないよう細心の注意を払いましょう。

| 残留農薬の検出リスク | 作物の種類や形態 |
|------------------|-----------------|
| 大 ↑ ↓ 小 | 軽量・小型の葉菜類（軟弱野菜） |
| | さやも食べる豆類 |
| | 軽量・小型の果実 |
| | 果菜類 |
| | 重量のある葉菜類 |
| | 果実類 |
| | 穀類 |
| 地下部にある作物 | |

普及センター R1活動紹介

地域指導課

地域指導課は、管内市町（盛岡市、滝沢市、雫石町、紫波町、矢巾町）や農業関係団体などと連携し、地域課題の解決に向けた支援を行っています。

主な活動としては、新規就農者の育成、生活研究グループや女性農業者の活動支援、食文化伝承や6次産業化支援、農業青年組織の企画・運営支援、認定農業者等の経営改善、岩手県農業農村指導士の活動に関する支援を担当しています。



関係機関との連携した新規就農者のフォローアップ強化



きゅうり圃場の現地巡回の様子



大豆圃場の現地巡回の様子

新規就農者の方々は、地域の次世代の担い手として早期経営確立に向けた支援が重要となっています。このことから、普及センターでは、市町・農業委員会・農協などの関係機関と連携したサポートチームにより、現地巡回による就農状況確認や経営目標に対する中間評価などを行い、技術習得や経営改善の支援を行っています。

管内5市町で実施した就農状況確認では、新規就農者個々が抱える課題や解決に向けた糸口などについて、現場を見ながら助言し、新規就農者の経営がよりよい方向となるよう働きかけています。

新規就農者の方々が、早期に経営確立し、将来、地域を牽引する中心的な役割を担うよう、普及センターでは、今後も、関係機関と連携したフォローアップを強化していきます。

【盛岡普及センター管内の新規農業者数の推移】（単位：人）

| | H28度 | H29度 | H30度 |
|--------------------|------|------|------|
| 新規就農者数 （雇用就農含む） | 43 | 42 | 50 |
| うち自営就農者数 | 23 | 28 | 27 |



話題の農村起業者のカフェ運営を学ぶ

9月17日に「盛岡地方農村起業講座」を開催し、起業家17名が参加しました。

今回は、盛岡管外の先進事例を学ぶため、花巻市と奥州市の農村起業家によるカフェ運営などについての視察研修を行いました。

花巻市「畑と食が繋がるカフェ ファームプラス」では平賀恒樹代表より説明を受け、カフェと工房の開設、ドレッシングの商品開発、花巻温泉との共同プロジェクト、農業体験受入などの多様な事業展開について学びました。

奥州市「ミズサキノート」では、及川由希子・健児夫妻から、新規参入でりんご園を継承して6次化に至った経緯、前職のキャリアを活かした商品・店舗デザイン、各種メディアでの宣伝活動など、強みを生かした事業展開について学びました。

いずれも農外のつながりを積極的に活用し明確な目的意識を持った活動に、参加者は刺激を受け、自身の経営を見直すきっかけとなったようです。



畑と食が繋がるカフェ
ファームプラス



ミズサキノート